

「国際平和文化創造力」を育成する NIE 学習の開発 ～单元「米国における日系移民の物語を追いかけて」～

小原 友行*

The Development of the Lesson Plan for NIE to Advance “the International Peace Culture Creativity” and the Unit Design on the “Chasing the Story of Japanese Immigrants in the United States.”

Tomoyuki KOBARA*

ABSTRACT

This research aims to develop a learning design plan for NIE (Newspaper in Education) that reflects multi-cultural learning issues. These are considered effective in fostering “the international peace culture creativity,” one of the qualities and abilities required in the rapidly evolving global era. This paper reports on an attempt to develop the conflict/dilemma type instructional materials and NIE lesson plans related to the story of Japanese immigrants in the United States, which was based on design thinking.

キーワード：「国際文化創造力」、日系移民、「デザイン思考」、NIE（教育に新聞を）

1. はじめに～本研究の目的と方法～

過去6年間、グローバル時代の中で生まれている対立や葛藤・ジレンマを克服するために必要な新たな価値の創造を担う人材に求められる「国際平和文化創造力」を、「デザイン思考」の考え方をベースに育成することをねらいとした授業モデル開発に取り組んできた。その成果としては、下記の5編の論稿がある。

- ①小原友行『『グローバル・パートナーシップ』を育成する多文化間イシュー教材の日米協働開発～『幕末の日米交流物語－万次郎とマクドナルド－』～』福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第6号，2020，pp.65-76。
- ②小原友行『『グローバル・パートナーシップ』を育成する希望創造教材の日米協働開発～平和を願った二人の少女の物語～』福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第7号，2021，pp.81-94。
- ③小原友行『『グローバル・パートナーシップ』を育成するNIE学習教材の開発～『ヒロシマの校庭から届いた絵－本川小学校の物語－』～』『日本NIE学会誌』第16号，2021，pp.1-8。
- ④小原友行『『国際平和文化創造力』を育成するNIE学習の構想～单元『アンネ・フランクが残した言葉を追いかけて』の開発を通して～』福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第8号，2022，pp.99-112。
- ⑤小原友行『『デザイン思考』に基づく『未来文化創造学習』の授業開発～東日本大震災地域の教材

を事例に～」福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第 9 号, 2023, pp. 1-26。

これらは、教材開発の視点からみれば、「相互交流型」「希望創造型」「対立・葛藤型」の 3 つに分類することができる。「相互交流型」の教材として開発したものが上記の①③であり、「希望創造型」の教材が②④⑤の論稿である。そして、2023 年度に「対立・葛藤型」の教材として開発したものが、本稿で取り上げる単元「米国における日系移民の物語を追いかけて」の授業プランである¹⁾。以下では、本プランの背後にある「国際平和文化創造力」を育成する NIE 学習開発の基本的視点（仮説）について提案するとともに、それに基づいて開発・試行した授業プランについて紹介していきたい。

2. 「国際平和文化創造力」を育成する NIE 学習開発の基本的視点（仮説）

(1) 目標としての「国際平和文化創造力」

本研究における目標としての「国際平和文化創造力」を考えるにあたっては、ユネスコ憲章前文にある、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」という表現に注目しておきたい。「平和のとりで」を子どもたち一人ひとりの心の中に築くことこそ、「国際平和文化創造力」の育成なのではなかろうか。

それを構成する具体的な資質・能力として、平和な国際社会を実現しようとする意欲や意識をベースに、一人一人が日常生活において国際平和のために行動することについて考える、次の 7 つの「C」を行うことができる資質・能力と規定しておきたい²⁾。

- ①キュリオシティ（好奇心, Curiosity）
- ②コミュニケーション（対話, Communication）
- ③コラボレーション（協働, Collaboration）
- ④クリティカル・シンキング（批判的思考, Critical Thinking）
- ⑤クリエーション（創造, Creation）
- ⑥チャレンジ（挑戦, Challenge）
- ⑦チョイス（選択, Choice）

これらの資質・能力は、急速に社会のグローバル化が進展していく中で、文化間での格差が広がり、摩擦や対立が深刻になっている今という時代において、憎しみや悲しみの連鎖を断ち切り、それを乗り越える勇気や寛容性を持つためにも必要不可欠なものである。また、「一方が正義で他方が悪」「どちらかが勝者でどちらかが敗者」とするのではなく、多様な正義を認めどちらも勝者となれるような世界の実現が求められている今日、10～20 年後という近未来の学校教育を考えると、このような資質・能力を備えた児童・生徒の育成は、最重要な今日的課題の一つであると考えられることができる。

(2) 「多文化間イシュー」を取り上げた「ストーリー性」（物語性）のある NIE 教材

次に、「国際平和文化創造力」の育成を目指す NIE 学習に有効と考えられる教材としては、次の 3 つの「多文化間イシュー」を取り上げた「ストーリー性」（物語性）のある学習材を用意することが必要と考える。

- ①「相互交流型」教材：文化間での国際的な相互交流の活動を通して、ウイン・ウインの関係を構築しようとする（した）人間の問題解決の「ストーリー」を取り上げた学習
- ②「希望創造型」教材：新たな価値の発見や再構築によって未来への希望を生み出そうとしている（した）人間の問題解決の「ストーリー」を取り上げた学習
- ③「対立・葛藤型」教材：文化間での対立・葛藤やジレンマを克服しようとする（した）人間の問題解決の「ストーリー」を取り上げた学習

本研究で取り上げた教材は、③の「対立・葛藤型」の学習材として日系移民の苦難からの克服のストーリー（物語）を取り上げたものであり、子どもたちがそれを歴史新聞記者として共感・追体験するような NIE 学習の試みである。具体的には、広島県からの日系移民が直面し、そこででの対立・葛藤やジレンマを乗り越え克服していったストーリー（物語）の背景を考えることを通して、心の中に平

和のとりでを築くことの意味を子どもたち自身に考えてもらう学習である³⁾。

(3) 「デザイン思考」の考え方を取り入れた NIE の学習過程

授業の主要な学習活動としては、既に先行論文で提案しているように、学習者が「新聞記者（ジャーナリスト）」として時空を超えて、学習材に登場する人物に取材を行い、そこで分析・解釈した「ストーリー」（物語）を編集し、情報発信するようなもの、すなわち、「新聞記者になる」活動を重視している。具体的に本教材では、およそ 150 年前のハワイ王国へ官約移民として海を渡った時代、その後ハワイにとどまり現地で別の仕事に挑戦したり、新たな新天地を求めて北米西海岸に移住し広島県人会を結成する時代、そして第二次世界大戦中に二つの祖国の間で苦悩しつつも戦後には被爆地広島の復興を支援してくれる時代にタイムマシンで移動し、各時代の日系移民を取材し、その背景や思いを分析・解釈し、それを「はがき新聞」で発信するという想定で、NIE 学習の基本である以下の 4 つの活動を取り入れた学習過程として組織している⁴⁾。

- ①「旅人になる」…取り上げた人物の問題解決の過程を、取材を通して体験・追体験しながら、共感し、問題発見を行う。（情報の受信・発見）
- ②「ジャーナリストになる」…取材した情報の背景を分析・解釈する。（情報の読解）
- ③「編集者になる」…読解された情報に関する価値判断に基づき、「ストーリー」（物語）として編集する。（情報の統合）
- ④「アーティストになる」…メッセージを込めた作品をクリエイティブに生み出す。（情報の創造・発信）

具体的には、①の「情報の受信・発見」では、物語として開発した資料（自作の「日系移民新聞」やスライドから、歴史新聞記者による取材の視点から米国における日系移民の物語の追体験を行い、情報を子どもたち自身が取り出す活動を行う。②の「情報の読解」では、日系移民の物語の中から発見した問いの探求を行う。③の「情報の統合」では、日系移民の物語の背後にある意図・目的・動機やその意味・意義を視点としたストーリーの解釈と創造を行う。そして④の「情報の創造・発信」では、情報を分析・解釈・統合したメッセージを伝える、題字、見出し、イラスト、意見や記事内容を考え、それを「はがき新聞」に表現する活動を行う。このようなプロセスは、新聞づくりの過程そのものでもある。

なお、「デザイン思考」とは、分析的・論理的思考と対比して、「イノベーションするための思考」「新たな価値を創造するための思考」「希望創造の物語を創り出すための思考」ととらえられているが、新聞づくりの過程と共通しているのとらえることもできよう。

3. 授業プランの紹介～単元「米国における日系移民の物語を追いかけて」～

(1) 授業目標

①知識・技能

- ・自作の「日系移民新聞」⁵⁾やスライド、授業配布資料⁶⁾などから、米国における日系移民の 3 つの物語に関する知識を抽出し、まとめ、発表することができる。
 - A サトウキビ・プランテーションのチャレンジャーとして働く「移民県広島」からの官約移民の物語
 - B 世界三大コーヒーの一つであるハワイ島のコナ・コーヒーを守り続けてきた日系移民の物語
 - C 第二次世界大戦中の二つの祖国間での葛藤・ジレンマや強制収容所での苦難な生活を克服した広島県人会による被爆都市ヒロシマの子どもたちへの復興支援の物語

②思考力・判断力・表現力

- ・先進的な農業を営んでいた広島県内の特定の地域（広島湾沿岸と太田川の中・下流域）の農家の長男が、官約移民としてハワイにわたっていったのはなぜか、その背景を考え表現すること

ができる。

- ・日系移民の人々は、ハワイ島のコナ・コーヒーづくりを受け継ぎ守ろうとしたのはなぜか、その理由を考え表現することができる。
- ・日系移民である米国の広島県人会の人々は、なぜ被爆後の広島の復興を支援してくれたのか、被爆後の子どもたちのために児童図書館の建設費を送ってくれたのか、その背景を考え表現することができる。
- ・第二次世界大戦中に、対立する二つの祖国をもつ日系人の人々の苦難について考え、自分だったらどのように行動するかを判断し表現することができる。

③主体的に学習に取り組む態度

- ・「はがき新聞」づくりを通して、「米国における日系移民の物語」への興味・関心や学習意欲をもち続けることができる。
- ・「米国における日系移民の物語」に関わる人々に備わっていた国際平和文化創造の意識について考え、心の中に平和のとりでを築くことの重要性に興味・関心をもつことができる。

(2) 授業の構造

旅人になる (情報の受信・発見)	ジャーナリストになる (情報の読解)	編集者になる (情報の統合)	アーティストになる (情報の創造・発信)
<ul style="list-style-type: none"> ◎米国における日系移民の3つの物語について知ろう。 ◎チャレンジャーとして働く「移民県広島」からの官約移民の物語について知ろう。 ◎ハワイ島のコナ・コーヒーを守り続けてきた日系移民の物語について知ろう。 ◎米国の広島県人会による被爆都市ヒロシマの子どもたちへの復興支援の物語について知ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎広島県内の特定の地域からの官約移民が多かったのはなぜか、その背景を考えよう。 ◎日系移民がハワイ島のコナ・コーヒーづくりを受け継ぎ守ろうとしたのはなぜか、その背景を考えよう。 ◎日系移民である米国の広島県人会の人々は、なぜ被爆後の子どもたちのために児童図書館の建設費を送ってくれたのか、その背景を考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日系移民の3つの物語に共通するキーワードを見つけよう。 ◎第二次世界大戦中に、対立する二つの祖国をもつ日系人の葛藤・ジレンマをどのように克服していったのか、自分なりのストーリーを考えよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎心の中に平和のとりでを築くために、自分たちに今できることは何か、自分なりの意見や考えをもち、発信(表現)しよう。 ◎「はがき新聞」を作成しよう。

(3) 授業の展開計画(全3時間、または2時間+家庭学習)

時 間	テーマ	主要な問い・活動
導入 (20分)	教材との出会い ○広島の中のハワイ ○ハワイの中の広島 ○日系移民との出会い に関するエピソードを紹介	○那須正幹『ズッコケ三人組ハワイ行く』の紹介 ○「フルサトハ広島」の紹介 ○広島市南区の「ハワイ移民資料館 仁保島村」のスライド紹介

	<p>(学習問題の発見)</p> <p>◎心の中に平和のとりでを築くために、米国における日系移民の物語を追いかけてみよう。</p>	<p>○ホノルル市の「ハワイ日本文化センター」のスライド紹介</p> <p>○「日系移民の一世～四世」「ある日系移民の一族」のスライド紹介</p> <p>○広島県からなぜ多くの官約移民がハワイに渡っていったのだろうか。</p> <p>○日系移民がハワイ島のコナ・コーヒーづくりを受け継ぎ守ろうとしたのはなぜだろうか。</p> <p>○日系移民である米国の広島県人会の人々は、なぜ被爆後の広島復興を支援してくれたのだろうか。</p> <p>○第二次世界大戦中に、対立する二つの祖国をもつ日系人の人々の苦難はどのようなものだったのか。自分だったらどのように行動するか。</p> <p>◎広島に住むこどもとして、日系移民の人々に向けたメッセージとして、「米国における日系移民の物語」を取り上げた「はがき新聞」を作成してみよう。</p>
<p>展開 1 (30 分)</p>	<p>旅人になる：情報の受信（取り出し）</p> <p>○米国における日系移民の 3 つの物語</p> <p>A サトウキビ・プランテーションのチャレンジャーとして働く「移民県広島」からの官約移民の物語</p> <p>B 世界三大コーヒーの一つであるハワイ島のコナ・コーヒーを守り続けてきた日系移民の物語</p> <p>C 第二次世界大戦中の二つの祖国間での葛藤・ジレンマや強制収容所での苦難な生活を克服した広島県人会による被爆都市ヒロシマの子どもたちへの復興支援の物語</p>	<p>○自作の「日系移民新聞」とスライドから、米国における日系移民の 3 つの物語について知る。</p> <p>A 広島県からの官約移民は、どのような地域から多く出たのか。ハワイのサトウキビ・プランテーションでは、どのような思いでどのような生活をしていたのか。移民を支えていた言葉はどのようなものだったのか。</p> <p>B ハワイ島のコナ・コーヒーづくりを守り育ててきた日系移民の人々は、どのような思いでそれを続けていたのだろうか。</p> <p>C 第二次世界大戦中の二つの祖国間での葛藤・ジレンマとはどのようなものだったのか、兵士になることを志願した若者や強制収容所に移送された家族はどのような気持ちだったのか。戦後、そのような生活に耐えた広島県人会の人々は、被爆後の広島市や広島の子どもたちに、どのような支援をしてくれたのか。</p> <p>○新聞記者として当時の日系移民の人々取材するとしたら、どんなことを聞いてみたいか、それはなぜか、考えてみよう。</p>

<p>展開 2 (30 分)</p>	<p>ジャーナリストになる：情報の読解（分析・解釈）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○チャレンジャーとして働く「移民県広島」からの官約移民の物語 ○ハワイ島のコナ・コーヒーを守り続けてきた日系移民の物語 ○米国の広島県人会による被爆都市ヒロシマの子どもたちへの復興支援の物語 	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県内の特定の地域からの官約移民が多かったのはなぜだろうか。なぜ、海を渡ろうと考えたのだろうか。 ○日系移民がハワイ島のコナ・コーヒーづくりを受け継ぎ守ろうとしたのはなぜだろうか。 ○日系移民である米国の広島県人会の人々は、なぜ被爆後の子どもたちのために児童図書館の建設費を送ってくれたのだろうか。
<p>展開 3 (20 分)</p>	<p>編集者になる：情報の統合</p> <ul style="list-style-type: none"> ○3つの物語に共通するキーワード：「こどものために」 ○対立する二つの祖国をもつ日系人の葛藤・ジレンマの克服：「広島の子どもたちが夢や希望をもつように」 	<ul style="list-style-type: none"> ○日系移民の3つの物語に共通するキーワードを見つけよう。 ○第二次世界大戦中に対立する二つの祖国をもつ日系人は、葛藤・ジレンマをどのように克服していったのか、自分なりのストーリーを考えてみよう。
<p>終 結 (50 分)</p>	<p>アーティストになる：情報の創造・発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○心の中に平和のとりでを築くために ○「はがき新聞」の作成とクラスでの交流 	<ul style="list-style-type: none"> ○心の中に平和のとりでを築くために、日系移民の物語から学んだことを参考に、自分たちに今できることは何か、自分なりの意見や考えをもち、発信（表現）しよう。 ○新聞記者として、米国における日系移民の物語を取り上げた「はがき新聞」を作成しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・題字，見出し，イラスト，記事，意見・考えなどを書き込もう。 ○作成した「はがき新聞」を発表し、クラスで交流しよう。

4. 開発した授業プランの考察

開発した授業プランの研究授業実施は、広島市立川内小学校の第6学年1組で2023年11月20日に実施した。

回収できた「はがき新聞」⁷⁾は23枚であった。これらを、本授業のパフォーマンス課題であった「はがき新聞」づくりにおいて、「題字，見出し，イラスト，記事，意見や考えの全てが表現されている」を評価規準として分類すると、表1のようになる。なお、全てが表現されている作品の中でも、教材の背景の深い読解（分析・解釈）に基づいた意見や考えが表現されていると考えられるものを、「表現の質が高い作品」として判定した。

表1 「はがき新聞」の評価規準の達成度

評価規準	広島市立川内小学校第6学年1組 (2023年11月20日実施)
どれかが不足している作品	0枚(全体の0%)
全てが表現されている作品	23枚(全体の100%)
(表現の質が高い作品)	(16枚, 全体の約70%)

表1のように、広島市立川内小学校第6学年1組の場合は、「題字、見出し、イラスト、記事、意見や考えの全てが表現されているもの」は23枚(100%)であった。その内「表現の質が高い作品」と考えられるものが16枚(全体の約70%)あり、児童にとっては深い学びができたと判定できる。なお、川内小学校の場合、研究授業実施日においては近現代の歴史学習はまだ行われておらず、新聞を活用したNIE学習や新聞づくり学習も未経験であった。

次に、「はがき新聞」の中で、児童は日系移民のどのストーリーを取り上げていたのかを考察すると、下記の表2のようにになっている。

表2 「はがき新聞」に取り上げられているストーリー

ストーリー	広島市立川内小学校6年生1組
①戦争から平和への日米関係(禎子の折り鶴が米国の追悼施設へ、平和公園とパールハーバーが姉妹協定)	9人(約39%)
②絵本と児童図書館のプレゼント	8人(約35%)
③官約移民の苦労	4人(約17%)
④コナ・コーヒーを守り育てた移民	2人(約9%)

表2のように、広島市立川内小学校6年生1組の場合は、「戦争から平和への日米関係」に着目した児童が9人(約39%)、米国南加広島県人会からの「絵本や児童図書館のプレゼント」が8人(約35%)、「官約移民の苦労」が4人(約17%)、「コナ・コーヒーを守り育てた移民」が2人(9%)であった。

なお、広島市立川内小学校6年生1組の「はがき新聞」のうち、深い学びと判定できる作品の具体的な題字(新聞名)と見出しの例を紹介すると、表3のとおりである。

表3 「はがき新聞」の題字と見出し例

○繋がり新聞：絵本を通して伝わる愛・願い
○思い新聞：両国の思い、そして今
○願い新聞：平和な未来へ
○移民新聞：日系移民がこめた思い
○平和新聞：平和を思って生きた移民達
○広島新聞：広島への郷土愛
○希望新聞：こどものために日系移民が継ぐ希望
○ふるさと新聞：響いた言葉 広島のために
○未来新聞：平和な未来のために
○折りづる新聞：思いを届けるために
○平和のとりで新聞：平和のとりではそこに…
○平和新聞：子どもたちに本をあげることで

- 未来新聞：日本の未来を変えるあるプレゼント
- 米国新聞：日系人のこどものためにとは
- 未来新聞：「こどものために」未来へ送りもの
- 平和のとりで新聞：心に築く，平和のとりで（4名）

5. おわりに～本研究の成果と課題～

本研究の成果としては、次の2点を指摘することができる。第1は、いまだ未成熟ではあるが、「デザイン思考」の考え方を取り入れながら、「国際平和文化創造力」を育成するNIE学習の授業デザインの理論仮説を提案することができたことである。第2は、構築した理論仮説に基づいて、広島県内の小学校高学年～中学校を想定した「対立・葛藤型」のストーリー（物語）性のある授業モデル案を開発することができたことである。

残された今後の課題としては、次の2点を指摘しておきたい。第1の課題は、研究授業の実施が広島市立川内小学校第6学年の1クラスのみでの試行にとどまっていることである。今後は、中学校での実施に基づく分析・評価が必要であるし、また近代以降の歴史学習やNIE学習の経験をもつクラスでの実施も必要である。第2の課題は、開発した授業モデル案それ自体が、現時点では大きな学習の展開を示すものにとどまり、詳細な学習指導細案にまでは至っていないことである。

【註】

- 1) 本授業モデルは、日本NIE学会第20回福岡大会自由研究発表第1分科会（2023年12月2日）において『『デザイン思考』に基づくNIE学習の開発－単元『米国における日系移民の物語を追いかけて』－』というテーマで発表し、それを踏まえて修正・改善したものである。
- 2) 本稿で示した7つの「C」については、下記の論稿でも触れている。
 - ・拙稿『『国際平和文化創造力』を育成するNIE学習の構想～単元『アンネ・フランクが残した言葉を追いかけて』の開発を通して～』福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第8号，2022，p.100。
 - ・同『『デザイン思考』に基づく『未来文化創造学習』の授業開発～東日本大震災地域の教材を事例に～』福山大学大学教育センター『大学教育論叢』第9号，2023，p.6。
- 3) 本授業モデルの開発にあたっては、以下の文献を参考にした。
 - ・那須正幹『ズッコケ三人組ハワイに行く』ポプラ社，2002。
 - ・Franklin Odo & Kazuko Sinoto, 'A PICTORIAL HISTORY OF THE JAPANESE IN HAWAII' 1885-1924', HAWAII' I IMMIGRANT HERITAGE PRESERVATION CENTER, 1985.
 - ・森茂岳雄他『移民を授業する』多文化社会米国理解教育研究会，2007。
 - ・ハワイ日本人移民史刊行委員会編『ハワイ日本人移民史』布哇日系人連合協会，1964。
 - ・秋山かおり『ハワイ日系人の強制収容史－太平洋戦争と抑留所の変遷』彩流社，2020。
 - ・アンドレア・ウオーレン（もりうちすみこ訳）『十歳，ぼくは突然「敵」とよばれた－日系アメリカ人の政治家ノーマン・ミネタ』汐文社，2019。
 - ・ジョージ・タケイ他（青柳伸子訳）『（敵）と呼ばれても』作品社，2020。
 - ・堀雅昭『ハワイに渡った海賊たち－周防大島の移民史』弦書房，2007。
 - ・ハルミ・ベフ編『日系アメリカ人の歩みと現在』人文書院，2002。
 - ・中国新聞「移民」取材班『移民－中国新聞創刊100周年記念企画－』中国新聞社，1992。
 - ・広島市企画調整局文化担当『海外移住調査研究レポート』広島市都市生活研究会，1985。
 - ・川崎壽『ハワイ日本人移民史』ハワイ移民資料館仁保島村，2020。
 - ・国立歴史民俗博物館編『アメリカに渡った日本人と戦争の時代』歴史民俗博物館振興会，2010。

- ・国立歴史民俗博物館編『ハワイ日本人移民の 150 年と憧れの島のなりたち』歴史民俗博物館振興会，2019。
 - ・海外移住資料館編『われら新世界に参加す』独立行政法人国際協力機構横浜センター，2004。
 - ・「近代日本移民の歴史」編集委員会編『ビジュアル版近代日本移民の歴史②北アメリカ～ハワイ・西海岸』汐文社，2016。
 - ・JAPANESE CULTURAL CENTER HAWAI' I『ガイドブック お陰様で』。
 - ・広島市こども図書館編『ベル・コレクション解題目録』広島市こども図書館，2016。
 - ・広島市移民資料展示会「フルサトハ広島」広島市市民局生活文化課文化担当，2002。
 - ・小原友行「社会科地域教材の開発研究（I）－『移民県広島』の授業－」『広島大学教育実践研究指導センター紀要』第 1 号，1989。
 - ・田中泉「ハワイ島コナ広島県人会の設立と加藤磯雄」『広島経済大学研究論叢』第 41 巻第 4 号，2019。
 - ・広島県編『広島県移住史 通史編』第一法規，1993。
 - ・長谷川寿美「広島の戦後復興支援－南加広島県人会の活動を中心に－」『JICA 横浜 海外移住資料館研究紀要』第 4 号，2010。
 - ・児玉正昭「瀬戸内地域の官約移民」後藤陽一編『瀬戸内海地域の史的展開』福武書店，1978。
 - ・有元正雄他『広島県の百年』山川出版社，1983。
 - ・広島県総務部県史編さん室『広島県史 近代 I』1980。
 - ・石川友紀「瀬戸内地域からの（出）移民」『史学研究』126 号，1975。
 - ・小川真知子「太平洋戦争中のハワイにおける日系人強制収容 - 消された過去を追って -」『立命館言語文化研究』第 1 号，2013。
 - ・「移民県広島」東京書籍中学校社会科教科書『新しい社会 歴史』東京書籍，2005 検定済。
- 4) 「デザイン思考」に基づく 4 つの活動については，下記の文献を参考にした。
- ・佐宗邦威『21 世紀のビジネスにデザイン思考が必要な理由』クロスメディア・パブリッシング，2015。
 - ・佐宗邦威『デザイン思考の授業』日本経済新聞出版本部，2020。
 - ・ジャスパー・ウ『実践 スタンフォード式 デザイン思考』インプレス，2019。
 - ・吉原麻里子他『世界を変える STEAM 人材 シリコンバレー「デザイン思考」の核心』朝日新聞出版，2019。
 - ・ティム・ブラウン『デザイン思考が世界を変える イノベーションを導く新しい考え方』早川書房，2014。
 - ・前野隆司編『システム×デザイン思考で世界を変える』日経 BP 社，2014。
- 5) 自作の「日系移民新聞」については，別紙 1 参照。
- 6) 自作の授業配布資料については，別紙 2 参照。
- 7) 広島市立川内小学校第 6 学年 1 組の児童が作成した「はがき新聞」例については，別紙 3 参照。

【謝辞】

本研究にあたっては，広島市立川内小学校の筒井順也校長と 6 年 1 組担任の吉田剛人教諭には，研究授業の実施およびパフォーマンス課題実施に関して協力をいただいた。これらの方々に，感謝申し上げます。

【追記】

本発表は，日本学術振興会 JSPS 科研費，基盤研究(C)（一般）(21K02618)「『国際平和文化創造力』を育成する「多文化間イシュー学習」の日米協働開発」（代表：小原友行，2021～2023 年度）の助成による研究成果の一部である。

別紙 1 「日系移民新聞」(表面)

主な記事

- ・米国における日系移民の歩み
- ・南加広島県人会から児童図書館の寄贈
- ・コラム「こどもたちが夢と希望をもつように」

日系移民新聞

創刊号
2023年(令和5年)
11月20日月曜日

「こどものために」

日系移民の希望の物語を追いかけて

「移民県広島」、かつて広島はそのように呼ばれていた。県内のどのような地域からの移民が多かったのか、それはどうしてか、移民先ではどのような苦難を乗り越えてきたのか、なぜ被爆後の広島の復興を支援してくれたのか、なぜそんなに頑張ったのか、沢山の問いが生まれる。日系移民の歩みをたどりながら、その理由を考えてみたい。

【広島市の中のハワイ】

広島市南区の黄金山のふもとに小さな博物館がある。ハワイ移民資料館「仁保島村」である。かつて黄金山は島であり、仁保島村と呼ばれていたことは知っていたが、なぜ「ハワイ」、なぜ「移民」。不思議に思っ

て資料館を訪ねてみた。館長の川崎壽（かわさきひろし）さんは、展示物を紹介しながら説明してくれた。明治時代の初めころ、広島県から日本へ一番多くの人々が新天地を求めてハワイへ移民として出かけて行ったこと、その時は仁保島村の漁民が最も多かったこと、三年間の出稼ぎのあと帰国



ハワイ移民資料館「仁保島村」

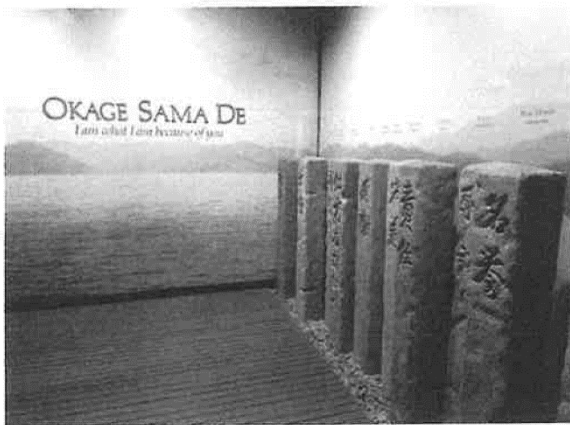
した時には大きな鞆を抱えていたことなどである。

【移民県広島】

資料で調べてみると、広島県は、一八八五〜一八九四、一八九九〜一九三二年の移民数の累計全国一位であった。一九二六〜一九三八年の移民の送金額も全国

一位であった。さらに、一九四〇年の海外在籍者数も全国一位と、まさに「移民県広島」であった。ハワイの日系人の間で話される日本語は、広島弁が標準語であったと言われていること。移民として海外に渡った人々は、広島県内の特定の

日系移民の人々が大事にしていたコトバ



移民が大事にした言葉（ハワイ日本文化センター）

地域（広島湾沿岸と太田川の中・下流域）に集中して多かったこともわかった。その地域は綿や藍の産地で、進んだ農業地域であった。

【ハワイに行っていました】

「なぜハワイ」、その答えを探するためにハワイのホノルルに出かけた。有名なワイキキビーチの近くにある「ハワイ日本文化センター」（移民博物館）を訪問する。入口には、「OKAGE SAMMA DE」の言葉と、移民が大切にしていたコトバの石柱があった。刻まれていたのは、「感謝」「責任」「頑張り」「我慢」など。

ハワイでは、三年間の契約でサトウキビ農園で働き、その後は日本に帰国する人の仕事につく人、アメリカ本土に移住する人もいたこと。



熱く説明する川崎館長



ホノルル・マキキ墓地

キ地区の日本人墓地には移民の墓が沢山あり、仁保島村出身のものも見られた。

【コナコーヒーと日系移民】
ハワイ諸島で最も大きなハワイ島のコナ地域は、世界三大コーヒーの一つである。「コナコーヒー」の産地である。気候や土壌の関係でハワイ諸島のなかで唯一コー生産ができたのがコナで、手作業の収穫作業などのため手放す農園が多く、それを受け継ぎ守ってきたのは日系移民の二世・三世の人々であった。コナの街には日系人のホテルや商店

創刊号

日系移民新聞

2023 (令和5) 年11月20日

【第一次世界大戦中は「敵」

も残っている。どうして頑張れたのであるのか。地元
の広島県人会の方に何うと、「二つものため」という言葉。わが子に勉強してもらうために、自分たちのような苦勞をさせないために。ハワイ日本文化センターにあった「KODOMO NO TAKE NI」のコトバが思い出された。

【北米西海岸の日本人街】
ハワイから更に新天地を求めて、米本土に移住する人も多かった。主には、西海岸の、カリフォルニア州にあるロサンゼルス、サンフランシスコ、サンノゼ、サクラメントなどの都市である。現在もそこには、日本人街が見られる。訪問すると、日系のホテル、和食のレストラン、日本食材の買えるストア、新聞社もある。

と呼ばれて」
日系移民の人々にとって最大の苦勞は、二つの祖国である日本と米國が戦争することになったことであろう。ある日突然「敵」となったわけである。家族を守るために多くの若者は米軍に入隊するもの、財産を没収されて強い強制収容所に送られる残された多くの家族、「対立」「葛藤」「ジレンマ」の日々であった。やがて、第二次世界大戦は終結するが、日系移民の人々の尊厳が取り戻されるには長い年月がかかった。一九七六年にフオーード大



第二次世界大戦中は「敵」と呼ばれて



統領が強制収容の誤りを認め、一九八八年にはレーガン大統領が「日系アメリカ人補償法」に署名・公式謝罪がなされた。

【南加広島県人会からのプレゼント】
広島が史上最初の被爆都市となったことを知ったハ

二つの祖国の間のジレンマを乗り越えて

ワイや北米の広島県人会の人々は、戦後復興のために多くの支援を行ってくれた。その中でも、南カリフォルニア州ロサンゼルス、南加広島県人会からは、こども用図書と図書館建設費が寄贈された。これによって建設されたのが「広島市児童図書



米国南加州広島県人会から寄贈された児童図書館



現在は子ども図書館

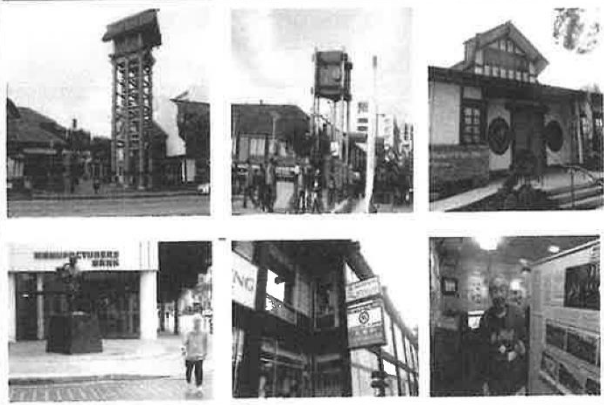
童図書館」（現在は広島市こども文化科学館に併設されているこども図書館である）

【ハワイと広島その後、そして今】
平和記念公園にある「原爆の子の像」のモデルである佐々木禎子さんが残した小さな折り鶴が、ハワイのパールハーバーの追悼施設であるアリゾナ記念館とミズリー記念館に寄贈されている。日米両国の平和を願って。

そして二〇二三年六月には、広島平和記念公園とパールハーバー国立公園の姉妹協定が締結されている。

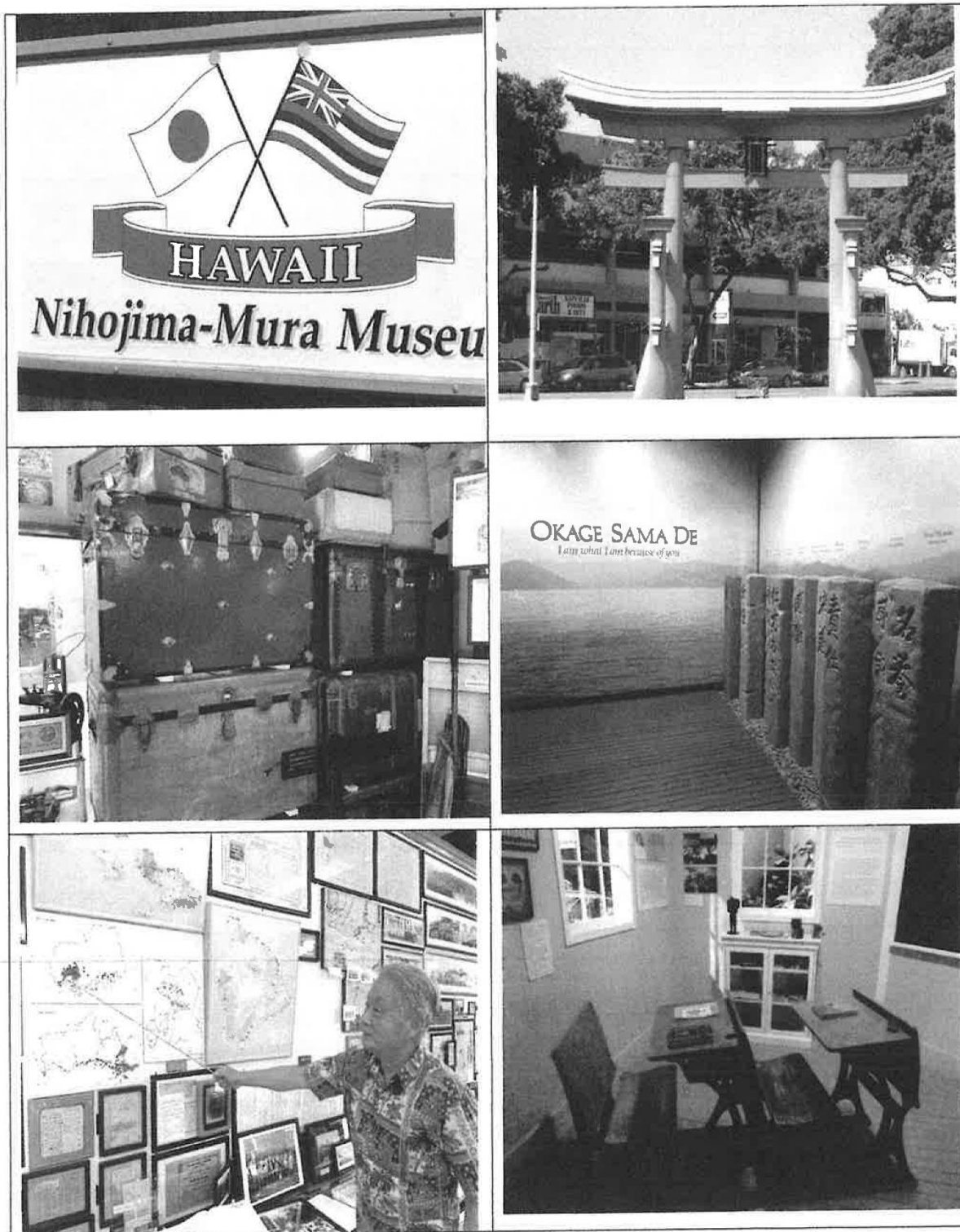
ヒロム
「ニヤもたちが夢と希望をもつように」

一九四九（昭和二四）年一月米國ロサンゼルス市「南加広島県人会」から、児童図書館建設費寄贈の申し出、五月在米広島県出身関係者からハワード・ベル博士を通じ絵本など千五百冊受贈、七月広島市児童図書館が広島市浅野図書館内に併設開館、一九五〇年五月「南加広島県人会」から児童図書館建設費四〇〇万円受贈、一九五三年十二月基町に広島市児童図書館落成▲なぜ第二次世界大戦直後に、かつての移民の子孫である日系人である広島県人会の人々は、被爆後の広島市の子どもたちに図書を、そして図書館を寄贈しようと考えたのであろうか。強制収容所での厳しい生活を余儀なくされたにもかかわらずである▲現在のこども図書館の入口にある「おいたち」のパネルによれば、「広島のことでもたちが夢と希望をもつように、こどもの図書館を建てて欲しいという願いから」と書かれている▲ホノルルにあるハワイ日本文化センター内に掲示されていたコトバ、「KODOMO NO TAKE NI」が思い出される▲百五十年前にハワイに渡り懸命に生き抜いた一世、こどものために新たな道を探した二世、二つの祖国の間で苦悩した三世、そして平和な今を生きる四世・五世、時代は変わらうとも受け継がれてきているのは「こどものために」「ふるさとのために」という強い思いではなからうか。



北米西海岸の日本人街 (ロサンゼルス、サンフランシスコ、サンノゼ)

©ハワイ移民資料館「仁保島村」(広島市)とハワイ日本文化センター(ホノルル市)(小原撮影)



◎数字でみる「移民県広島」

資料④ 広島県の累計移民数の全国的位置 (広島県総務部歴史編さん室『広島県史 近代1』 p.1035)

道 府 名	明治32年~ 昭和7年		明治19~27年 (官約移民)		明治32年~ 大正12年		大正13年~ 昭和7年		
	累計人数	全国 比 順位	累計人数	全国 比 順位	累計人数	全国 比 順位	累計人数	全国 比 順位	
広島	92,716	16.8	1	11,122	38.2	1	79,316	20.0	1
熊本	61,400	11.1	2	4,247	14.6	3	46,276	11.6	2
沖縄	55,708	10.1	3				32,541	8.2	5
福岡	44,793	8.1	4	2,180	7.5	4	34,832	8.8	4
山口	42,842	7.8	5	10,424	35.8	2	30,443	9.2	3
和歌山	28,026	5.1	6	55	0.2	10	20,835	5.2	6
福島	19,921	3.6	7				14,511	3.7	7
岡山	19,728	3.6	8	62	0.2	9	14,495	3.6	8
長崎	17,329	3.1	9				13,422	3.4	9
北海道	15,983	2.9	10				8,829	1.5	13
新潟	14,393	2.6	11	514	1.8	5	11,905	3.0	10
富山	12,773	2.3	12	81	0.3	8	10,492	2.6	11
鹿島	11,613	2.1	13	20	0.1	12	8,159	2.1	13
静岡	7,345	1.3	14	11		14	4,628	1.2	15
佐賀	7,308	1.3	15				3,941	1.0	21
愛媛	6,863	1.2	16				4,058	1.0	20
兵庫	5,328	1.1	17				4,322	1.1	16
高知	6,236	1.1	18				4,065	1.0	19
宮城	5,191	1.1	19	1		18	3,881	1.0	22
福井	5,633	1.0	20				4,751	1.2	14
徳島	5,625	1.0	21				4,255	1.1	17
三重	5,505	1.0	22	14		13	4,072	1.0	18

募集・ハワイ移民

◆ハワイ移民求人票 ハワイ国総領事 R・W・アーウィン

職 種	移住先地の栽培と製糖工場勤務
応募資格	身体健康な農業経験者 家族同伴、単身いずれも可 ただし女性単身は不可
給 料	男・15ドル (基本給9ドル+食費6ドル) 女・10ドル (基本給6ドル+食費4ドル) 労働日数と時間・1か月26日間・1日10時間 (工場は12時間)
福利厚生	病気治療費 全額雇用主負担 放事用の宿 住居費 白米・1ポンド当たり5セント以下で支給
特 約	3年間の労働義務がある
その他	特典・3年間入国税を免除 給与の25%を天引預金、利息をつけて帰国時一括払 横浜、ホノルル間の運賃と食事はハワイ国政府が負担
契約の方法	横 浜で日移民とアーウィン・ハワイ国総領事が ホノルルで日移民と農場経営者が契約書を交わす 日本人移民は計2回契約書に署名する

資料⑤ 官約移民の町村別累計移民数 (児玉正昭「瀬戸内地域の官約移民」後藤陽一編『瀬戸内海地域の史的展開』福武書店、1978、p.334)

郡 名	地 域	累計移民数と町村名 (25人以上)				
		250人以上	250~200人	200~150人	150~100人	100~50人
安 芸	沿岸部	仁保島(997)	海田市(226) 中(208)	牛久保(177) 船越(160)	戸坂(149) 野(113) 奥田(113)	高田(93) 庄(78) 野(67) 山(63) 坂(51)
	島嶼部					
伯 耆	沿岸部	地御前(297) 五海(288)	廿日市(237) 吉田(219) 八幡(201)	大野(198) 大野(191) 大野(184) 大野(177) 大野(170) 大野(158)	石内(149)	小方(78) 小野(65)
	島嶼部					河内(47) 見(30)
沼 田・高 宮	大田川 中下流 段		三川(236) 亀山(205)	三津(193) 川内(174) 安(164)	伴(149) 田(142) 原(141) 東(111)	福山(94) 木(84) 原(76) 川(74) 入(60) 三(60)
	山間部					井(49) 久(49) 八(37) 小(37) 東(31)
豊 後	山間部					神中(29) 砂谷(29)
	山間部					福木(88) 日前(41) 大長(46) 波(40) 沼田西(39)

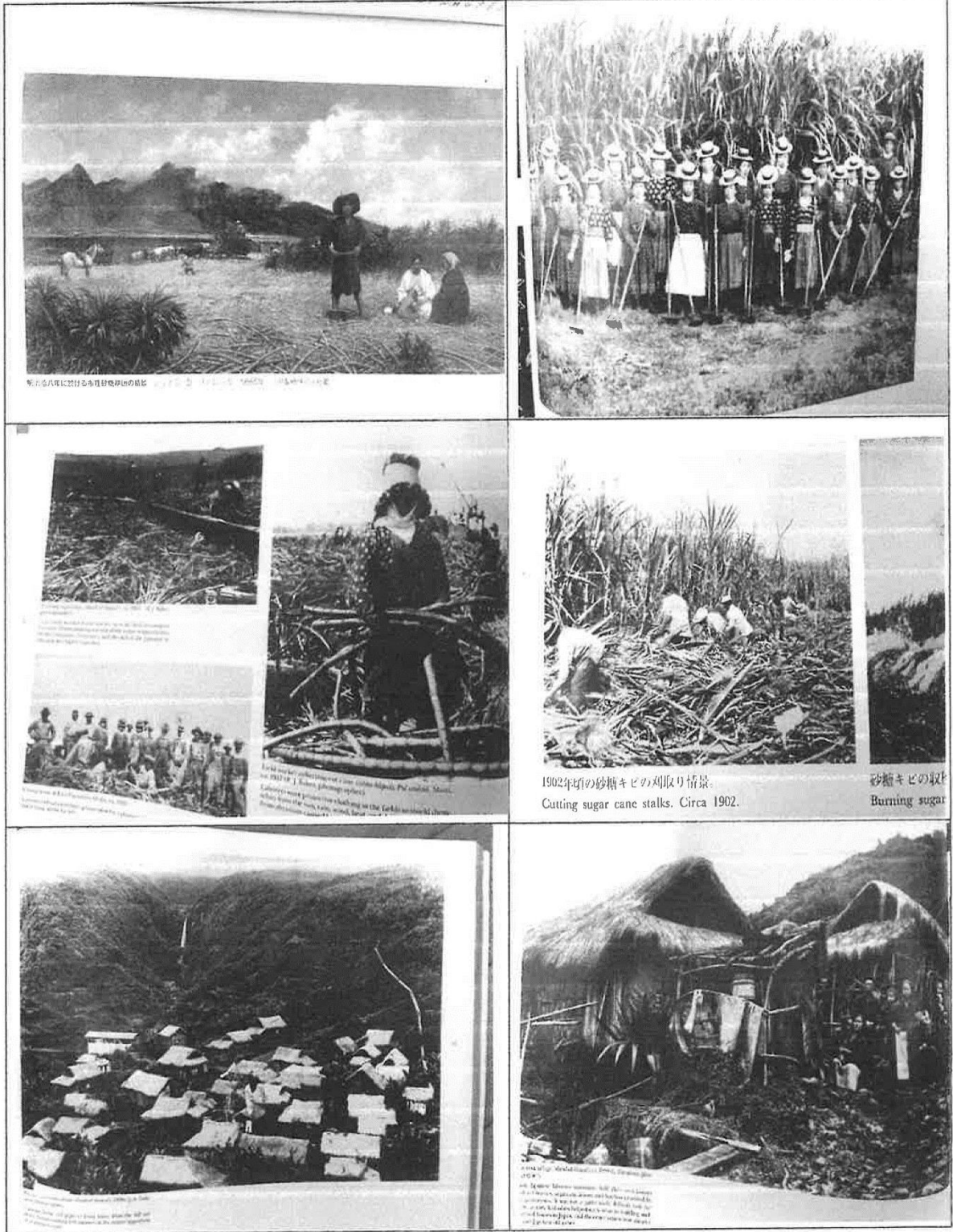
資料⑦ 特有農産物の地域区分 (同上、p.347)

地 域	郡市名	特有農産物の割合	普通農産物の割合	その他	農産物産額に占める割合が1%以上の特有農産物名 (数字は割合を示す)
安 芸	広島	66.2	32.1	2.7	柿(56.9)、藍(7.4)
	安芸	15.4	84.0	0.6	柿(11.7)
	佐伯	23.3	75.2	1.5	柿(8.0)、甘橙(8.6)、柿(3.3)
	沼田	23.7	72.3	4.0	藍(11.8)、大麻(7.2)、藍(1.4)、藍(1.4)
	高宮	15.0	81.3	3.7	藍(6.0)、大麻(5.7)、藍(1.3)
伯 耆	高宮	9.1	89.5	1.4	柿(6.1)
	豊田	12.5	86.5	1.0	柿(7.2)、藍(3.7)
	沼田	12.9	82.7	4.4	柿(6.2)、藍(3.3)、藍草(0.8)、藍(2.3)
	深津	26.1	72.2	1.7	柿(21.9)、生糸(5.2)、藍(1.8)、藍草(1.6)
	深津	21.9	76.7	1.4	柿(13.5)、藍(6.9)、藍(1.1)
沼 田・高 宮	沼田	20.8	72.2	0.8	高麗菜(13.0)、柿(4.2)、藍(2.0)
	安田	21.8	76.0	2.2	柿(8.9)、藍(7.3)、高麗菜(2.4)、藍草(2.1)
	高田	21.0	77.7	1.3	柿(11.4)、藍(9.2)
	山田	19.2	77.3	3.5	大麻(15.5)、柿(1.0)
	高田	8.4	84.4	7.2	大麻(2.3)、藍(2.0)、藍草(1.4)
豊 後	2.2	96.1	0.7	柿(1.5)	

資料⑧ 広島県の都市圏 (後藤陽一『広島県の歴史』山川出版、1972、p.98)



◎写真にみるハワイでの移民の生活 (Franklin Odo & Kazuko Sinoto, 'A PICTORIAL HISTORY OF THE JAPANESE IN HAWAII 1885-1924', HAWAII IMIMIGRANT HERITAGE PRESERVATION CENTER, 1985, より小原撮影.)



◎ハワイから北米西海岸へ（ロサンゼルス、サンフランシスコ、サンノゼ）（小原撮影）



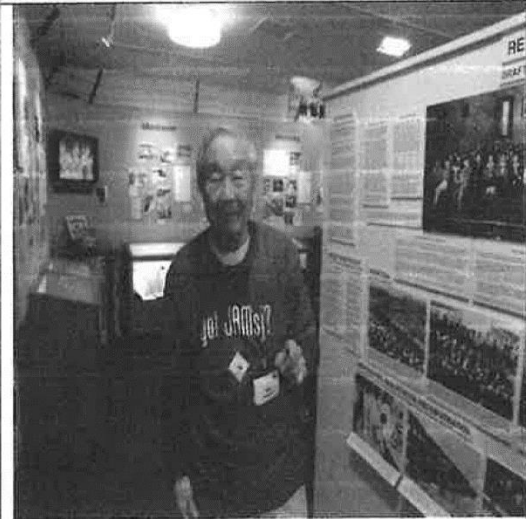
ロサンゼルス



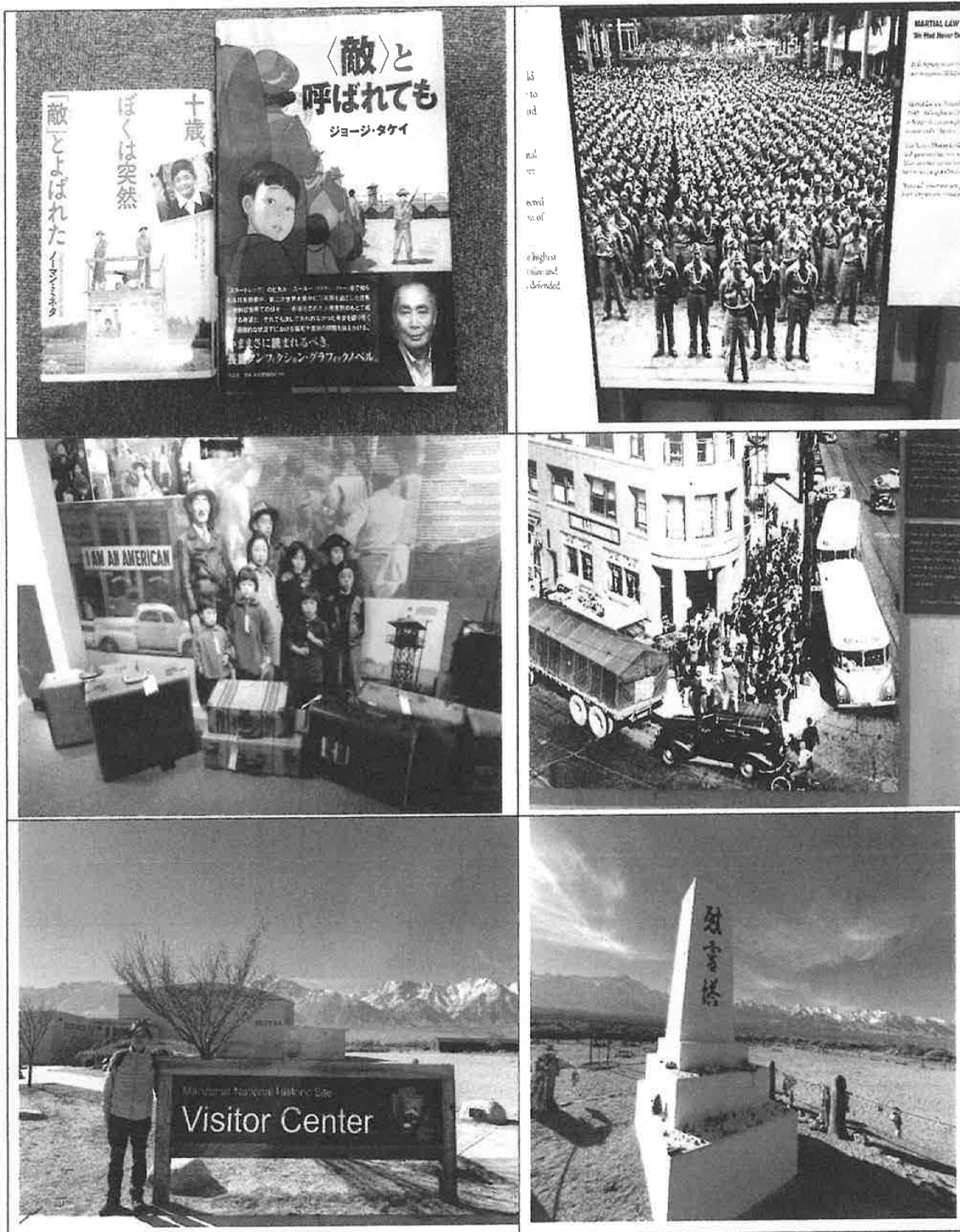
サンフランシスコ



サンノゼ



◎第二次世界大戦中の日系人の苦労（小原撮影）



◎南カリフォルニア州の広島県人会から贈られた児童図書館（広島市）（小原撮影）

